

平成29年度

「光り輝く商店街発掘・創出事業」

大町四ツ角中央商店街

リノベーション事例集

平成30年3月



「光り輝く商店街発掘・創出事業」の概要

現状と課題

- 大型店の進出、ネットショッピングの浸透、多様化する消費者ニーズへの対応の遅れ等に加え、震災及び原子力災害の影響により、**まちの顔である商店街は、賑わい・魅力を失いつつある状況。**
- 「買い物」だけで大型店やネットショッピングに対抗することは極めて厳しく、**街並みや店舗の雰囲気、サービス内容を刷新し、まち歩きやお店めぐりを楽しんでもらうことが、商店街の存続、まちの魅力向上にとって重要。**



- ・店主の高齢化
- ・後継者不足
- ・投資意欲等の減退
- ・消費者ニーズへの対応の遅れ
- ・組織力の低下

事業内容

商店街への**覆面調査**を実施し、**外部の目で発見した課題を改善するとともに商店街が保有する資源を磨きあげながら魅力を向上させるためのプランを提案し、商店街をまちの魅力の核とする。**

1 商店街への覆面調査（平成28年度実施）

～外部の目線で課題や強みを発見～

- 商店街に覆面調査員を派遣し、接客態度、メニュー・品揃え、内外装等に関する課題や強みとなり得る資源を調査。
- 覆面調査は、調査日時や調査員の身分を明かさずに実施することを想定。



2 リノベーションプランの提案（平成28年度実施）

～覆面調査の結果をもとに魅力向上の方策を検討～

- 覆面調査の結果等をもとに、各分野の専門家が分野別のリノベーションプランを店舗ごとに提案。
- まちづくりプロデューサーが分野別リノベーションプランをまとめ、商店街及び各店舗に提案。



3 リノベーションプランの実現【7～2月頃】

～リノベーションプランの実現に要する費用の一部を県が支援～

- 商店街全体又は各店舗がリノベーションプランの全部又は一部を年度内に実現しようとする事業に対し、予算の範囲内で県が補助金を交付。

補助率3/4以内
地域全体で1,000万円以内



4 事例集の作成【2～3月頃】

～リノベーション実現までの過程を県内全域で共有～

- 専門家によるリノベーションプランの内容と商店街による実現内容をリノベーション事例集としてまとめ、県ホームページで公表。
- 県内全域で事例を共有し、外部の目線を活かしたリノベーションまちづくりを促進。



※ 1、2、4は委託事業として実施、3は県が直接補助金を交付。

商店街の紹介



1) 所在地／電話番号

福島県会津若松市大町1-2-3 / 0242-25-2085

2) 設立年次

西暦1968年6月(和暦 昭和43年6月)設立。

大町は約400年以上にわたる会津の歴史と町人文化が色濃く残った町で、当時から5日・10日には市(いち)が立ち、初市には沢山の人々が集まっていた。現在も毎年1月10日の「十日市」として賑わっている。また、会津で一番古く城下町のたたずまいの残る商店街であり、地場産業の漆器・民芸品・菓子やファッションと個性的な品揃えをした専門店が集まり、歴史ある建物と近代建設がうまく混ざりあった街。

3) 会の運営

会津若松まちゼミを立ち上げ、地元の方にお店の存在・特徴を知っていただくとともに、お店とお客様のコミュニケーションの場から、信頼関係を築き、より大町四ツ角中央商店街を認知してもらい取り組みを行っている。

専門家による調査結果の概要

商店街全体をリノベーションしたという視覚的効果を生み出すためには、昼間から夜間に時間的に連続する効果と商店街全体の空間的な連続性を感じさせる効果を作り出す必要がある。そのための重要な要素は色彩効果、照明効果等である。照明効果については昨年度の個店のリノベーションで確認されている。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

商店街全体でカラーデザインの統一感を創りだしてイメージの一新を図る。キーカラーは会津若松の若松色、ライトグリーンとし、その色が商店街を歩いていくと目に入ってくるようにしたい。カラーアイテムとしては、バナー、ロールスクリーン、カーテン、縁台と日傘、キャンपीー、屋台、案内板やベンチそしてTシャツや半纏、キャップなどのグッズまできめ細かく揃える。このワカマツグリーンのアイディアは、商店街の創意工夫や大学生や高校生からのアイディアも募集して多様な展開を図っていく。

リノベーション後に対する期待

フラッグサインについては、四ツ角の変則十字路がモチーフとなっているデザインで、訪れた方に街を認識する効果を期待している。

また、法被については、年に4回行われるイベント等で着用し、外に対する商店街の取り組みの発信とその団結の意思表示として捉えてもらいたい。

今後の展望

隣接する七日町に比べると観光客に対する認知度が低いのでより高めて行きたい。また、まちゼミ等の商店街としての取り組みを継続していきたい。

リノベーションプランの実現内容

- ・フラッグサイン製作・設置。地元の方のデザインによる、四ツ角の変則十字路がモチーフ。商店街各所にある、既存の野口英世看板の下に設置。
- ・法被製作。年に4回あるイベント等に、商店街の方々に着用する。地元の方のデザインでホームページと同じ「むじっくん」が緑の生地に白抜きで施されている。



理事長：佐藤 甚吾さん

■実施事例



フラッグサイン



フラッグサイン／設置風景



法被(表)



法被(裏)

専門家からのコメント

大町四ツ角中央商店街は、街としての歴史は古く、多くの伝統的な建築物は残しながらも、街の認知度が低いことを問題視していた。フラッグサインは、街の範囲やその認知度向上の手助となることを意図している。また法被は、会津若松の若松色である鮮やかな色でつくられており、古いまちなみの色に対して映えることを意図している。若松色という、同市内でもあまり使用されていない色でありながら、会津若松を代表する街に相応しい色で、新しい取り組みとしての印象を訪れる方に与えられる。

店舗の紹介



1) 所在地／電話番号

福島県会津若松市大町1-3-51／0242-22-0454

2) 創業年次

2009年9月(平成21年9月)。1779年(安永8年)創業の漆器店の土蔵を改修して、カフェを開店。三つ並んでいた蔵の真ん中に位置することから、「中の蔵」とした。

3) 店舗の営業

健康に留意したメニューをオリジナル漆器で提供。

4) 店舗の特色

江戸時代の建物、江戸・明治の様々な古い物を体験できる。

5) 営業時間／定休日

11:00 ~ 17:00／木曜日、日曜日、不定休

6) 商店街の中での特色

通りから通路を奥に入った所にある隠れ家カフェ。

7) 経営に対して心がけている点

よそから会津へ来られたお客様が、来たかいたががあったと思って頂けるお店づくり。

専門家による調査結果の概要

外部に関しては、屋根の銅板葺、樋の痛みが激しく、屋根は雨漏りが心配。また入口周辺に物が雑然と置かれ、庭の手入れが行き届いておらず閉鎖的で気持ち良い場所になっていない。

内部に関しては、一部床、壁を改修している。天井が低く、開口部が小さいため風通しが悪く、閉鎖的で暗い。清潔感が損なわれている印象を与えている。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

外部に関しては、道路からのエントランスを工夫し、庭の植栽を減らし手入れを行い、ガーデンカフェなどのデザインにする。屋根、樋の劣化が進んでいるので、補修が必要。内部に関しては、照明の照度を高め、店内を少し明るくする。家具の趣向がバラバラなので、統一するとより良くなる。

リノベーション後に対する期待

観光客への集客、ガーデンカフェとしての充実、大町通りの憩いの場としての認知度のアップ。

今後の展望

漆器店の店舗、続く蔵座敷の活用。

また、大町四ツ角中央商店街に対しては、後継ぎのいない店舗を、何かやりたい若い年齢層の人が活用できるような仕組みの定着化を期待している。

リノベーションプランの実現内容

- ・入りづらい印象のある通りからのアプローチと通路の整備。既存木製デッキ撤去後、玉砂利、インターロッキングを施し、既存木塀塗り替え。
- ・入口の屋根、樋の修復。
- ・中庭の整備。整地後、チップ材・玉砂利を施し、隣地境界に竹垣を設置。既存植栽の剪定。
- ・店内照明の改善。アンティーク照明設置。



店主：満山 順一さん

■実施前



既存木製デッキ／アプローチ



既存屋根、植栽／中庭



既存照明／店内

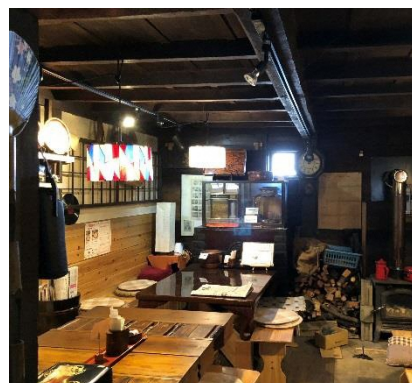
■実施後



新規インターロッキング／アプローチ



新規屋根・樋、植栽／中庭



新規アンティーク照明／店内

専門家からのコメント

外部空間のアプローチ、中庭を修繕することによって、以前よりお客様を店内に導きやすくなった。また中庭をカフェスペースとしてより有効活用できるようになった。

今後は、店内をより整理することによって、居心地の良い空間にすると良い。

店舗の紹介



- 1) 所在地／電話番号
福島県会津若松市大町1-8-11／0242-22-0158
- 2) 創業年次
1885年(明治18年)。店主の曾祖父が開業し、1948年(昭和23年)に株式会社に移行。
- 3) 店舗の営業
日本茶、茶器、食品
- 4) 店舗の特色
日本茶を中心にそれに付随する茶器類を豊富に品揃えしている。
- 5) 営業時間／定休日
9:30～19:00／元旦のみ
- 6) 商店街の中での特色
本業一筋で136年営業しており、日本茶には自信をもっている。
- 7) 経営に対して心がけている点
当たり前的事だが、頂いた御注文はお断りしないように努めている。

専門家による調査結果の概要

外部に関しては、縦格子で既成サッシ目隠しと和の要素としている。内部に関しては、和風、床の間を模したディスプレイがある。物が多く、どこに何の商品が置いてあるか不明瞭。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

和の空間を演出する要素が多いが、商品の序列と共に販売商品の取捨選択を行い、空間を広く見せ、お客様がお茶を飲める、スイーツ等が食べられるスペースを充実させる。また、床のビニールシート張りの刷新、天井の照明に対して障子を取り付けると見栄えも良くなり店内がやわらかい明るい空間になる。

リノベーション後に対する期待

以前からかなりの場所を塞いでいた什器を撤去し、店内が広くなったおかげでお客様の憩いの場所が提供できるようになった。お茶を提供し、ゆっくりとお客様に買い物をして頂ければ幸い。

今後の展望

和式トイレは小さなお子様には抵抗があるため、できれば洋式トイレに変更したいと考えている。
大町四ツ角中央商店街に関して、市内の中心地に位置し、個店それぞれが豊かな個性を持っているので、顧客満足度は高いと考えている。今後は、純然たる貸店舗がないので、大家さんの協力を仰ぎつつ、空き店舗の有効活用を継続的に行っていきたい。

リノベーションプランの実現内容

- ・照明の刷新によるLED化。一部障子を貼った天井照明に刷新。
- ・木目調のビニール床タイルへの張替え。
- ・天井クロス張替え。
- ・商品を取捨選択し、ディスプレイを刷新。



店主：佐藤 甚吾さん

■実施前



既存外部照明／エントランス



既存天井照明、床材／店内



既存天井照明、床材／店内

■実施後



新規照明／エントランス



新規天井照明、床材／店内



新規天井照明、床材／店内

専門家からのコメント

外部照明を刷新することで、夜間の看板の視認性が高まり、通りの明るさに対しても貢献している。また店内も照明の刷新と天井クロス張替えによって明るくなり、商品が見やすくなった。

今後は、継続的にディスプレイを刷新していくと良い。

店舗の紹介



- 1) 所在地／電話番号
福島県会津若松市大町1-1-53／0242-27-0404
- 2) 創業年次
1882年(明治15年)11月。足袋製造業より創業。
1951年(昭和26年)4月現在の会社を設立。
- 3) 店舗の営業
呉服・反物・和装小物・和雑貨・呉服関連品等。
- 4) 店舗の特色
店頭15坪で絹以外の呉服・反物(既製品・木綿・化繊反物など)、和製小物、和雑貨、呉服関連品を展示販売、入店しやすい雰囲気。
- 5) 営業時間／定休日
10:00～19:00／毎週水曜日
- 6) 商店街の中での特色
手持ちの着物のメンテナンス、再利用、買取など“きもの”全般のフォローアップ。
- 7) 経営に対して心がけている点
ただ商品を販売するだけのスタイルから、商品の価値アップ(技法・工程・作者の思い、希少性等)を行い、購入して頂く販売法に転換。

専門家による調査結果の概要

外部に関しては、アルミサッシを木製ルーバーで隠し、看板・のれんに趣を残す配慮がみられる。内部に関しては、天井を張らずに梁を現しにすることで、独特の雰囲気と歴史性を醸し出している。また商品の陳列がまばらでコンセプトが不明瞭に見える。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

内装をより建物の趣にあった仕上げに変更し、本物志向な雰囲気を演出する。また販売したい商品を明確化したうえで陳列商品の密度を減らし、オープンスペースを設け、和装を召された方に対する演出効果を高める内装にする。

リノベーション後に対する期待

店舗改装前の閉店売り出しによる収益の向上とともに、店舗改装後の商品構成見直しによる店頭活性を広報新媒体にて広め、新規客の拡大を図る。

今後の展望

“きもの”という非日常をもっと身近に感じてもらう店舗づくり。“きもの”のことなら大善屋と認知して頂けるようソリューション力を強化、発信していく。具体的には、新しい什器への移行、動き易く機能的な店舗、並びにバックヤード収納庫整備に向けての大幅改装(新装)を行う。

大町四ツ角中央商店街に対しては、会津で一番古い商店街、中心商店街なので、温故知新、不易流行の思いで各店舗が共存繁栄して行くことを期待する。

リノベーションプランの実現内容

- ・歴史を感じさせる天井とつり合う床の雰囲気にするため、店頭スペースの床を木目調ビニールシートに張替え。
- ・看板の補修、塗り替え
- ・座敷スペース畳の表替え、緑色の毛氈敷き替え。
- ・什器の一部補修と補充。

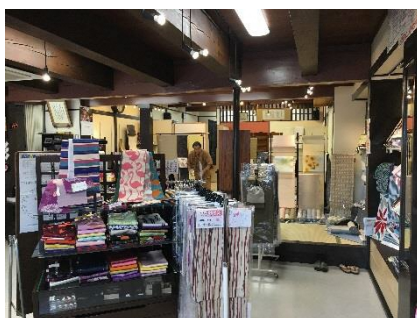


店主：畑 恒夫さん

■実施前



既存看板／外観



既存ディスプレイ、畳敷き／店頭・奥座敷



既存床シート、ディスプレイ／店頭

■実施後



新規看板／外観



新規畳・毛氈／座敷



新規木目調床シート、ディスプレイ／店頭

専門家からのコメント

古くからの天井の大きな松の梁、天井の板張り雰囲気と合う木目調床シートに張り替えたことによって、店内が温かみのある雰囲気になった。また座敷の畳、毛氈、一部什器を刷新し、レイアウトを更新し、よりの雰囲気を感ぜられるようになり、同時に商品も見やすくなった。

ディスプレイを季節ごとに変更するやり方を大事にし、その変更都度のコンセプトがお客様に伝わる工夫を継続的に行うと良い。

店舗の紹介



- 1) 所在地／電話番号
福島県会津若松市大町1-2-55／0242-22-5305
- 2) 創業年次
1868年(明治元年)4月。明治元年4月にそれまでの生糸仲買業から旅館業に転業し、1977年(昭和52年)7月全面改築の上、ビジネスホテルとしてオープン、現在に至る。
- 3) 店舗の営業
ホテル業
- 4) 店舗の特色
1Fはフロント、ロビー及びテナント2店舗。
2Fは食事処、3～5Fは客室。
- 5) 営業時間／定休日
16:00～10:00／1/2～1/4
- 6) 商店街の中での特色
お客様の安心、安全、及び清潔できれいな客室を低価格でご利用頂く。
- 7) 経営に対して心がけている点
大町四ツ角の中心に位置した商用客、観光客には便利なホテル。

専門家による調査結果の概要

昨年度の前面エントランス及びロビ一天井の改修、電灯のLED化、1階のLED文字看板の設置、既存看板の撤去によりイメージを一新したが、看板を撤去した箇所の金具設置跡が残ったほか、1階が明るくなったことで、2階文字看板の存在感が薄れた。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

照明によって夜間に温かみのある光で四ツ角の街灯の役割を果たすようにしたい。建物色調の調整、過剰看板の整理、通りに露出している設備機器の再配置を検討すると良い。

リノベーション後に対する期待

大町四ツ角の中心のビルとしてホテルだけでなくテナント3店舗のイメージも大幅にアップ、多数の集客に貢献できると期待している。

今後の展望

現在約10ヶ月間に渡り、ボイラー設備、配管設備の更新中で3月末には完成予定。今後は、国内向けではなくインバウンドに備えたソフト面での充実を図る。中長期的には、館内の内装の更新を考えている。大町四ツ角中央商店街に関しては、七日町通りの観光客の賑わいを延長できれば良いと考えている。

リノベーションプランの実現内容

- ・昨年度取り外した看板の金具部分を中心に2階バルコニー部分の塗装。
- ・一之町通り突き当りの建物2階部分に設置している看板に対してLED照明を設置。



店主：福西 正弘さん

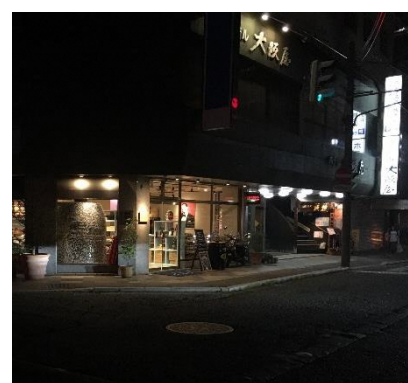
■実施前



塗装前／2階バルコニー部



塗装前／2階バルコニー部



既存文字看板／2階バルコニー部

■実施後



塗装後／2階バルコニー部



塗装後／2階バルコニー部



新規文字看板／2階バルコニー部

専門家からのコメント

外壁塗装は同色のため変化は乏しいが、老朽化していた2階バルコニー部の塗装が刷新され、旧看板設置跡が消えた。また、看板文字を刷新したことによって、建物から少し離れた場所から見ると以前よりもかなりハッキリ文字が見えるようになり、印象的になった。

店舗の紹介



- 1) 所在地／電話番号
福島県会津若松市大町1-10-16／0242-29-5577
- 2) 創業年次
1973年(昭和48年)。中央通りで創業し、現在の大町へ移転した。
- 3) 店舗の営業
有田焼、京焼をはじめとする全国主要産地の和食器、ナルミ、ブリタケを主要とする洋食器、カトラリー、ガラス器。
- 4) 店舗の特色
和を基調とした店舗
- 5) 営業時間／定休日
10:00～20:30／特になし
- 6) 商店街の中での特色
和洋を中心にした抱負な品揃え、自家需要、上等品、引出物まで幅広く対応。
- 7) 経営に対して心がけている点
器を通して毎日の食卓をより楽しくするお手伝い、お客様のお役に立つことを心がけている。

専門家による調査結果の概要

外部に関しては、屋根の和瓦、壁の真壁風、アルミサッシを堅格子で隠すなど、和の趣を出す配慮が見られるが、軒先のステンレス製の幕板と和の外装が合っていない。また、ショーウィンドウが中途半端に出ているシャッターが気になる。

内部に関しては、格式のある印象を与える販売スペースになっている。商品によってより内装にメリハリをつけても良い。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

建物の構造上、中の様子が見えにくいので、ショーウィンドウの重要度は高く、外観にある複数のショーウィンドウを改善し、より効果的に使う展示を行う。

リノベーション後に対する期待

故障のため中途半端な位置で停まっていたシャッターを修繕することで、隠れていたサインが出て、開店時はシャッターが上がりきるので、ショーウィンドウの印象が良くなり、お客様に対するアピールの度合いが上がる。

今後の展望

ショーウィンドウの有効活用により自店の存在を知ってもらい、より多くのお客様の入店を促す。今後は、駐車場の整備、通り側のステンレス壁面の改修を行いたい。

大町四ツ角中央商店街に対しては、市の中心で歴史ある商店街として、各店舗と商店街全体の方向性を調整していき、地元のお客様、観光客で賑やかな商店街になることを期待する。

リノベーションプランの実現内容

- ・故障していたシャッターの修繕、及び既存同様のサインをシャッターに施した。
- ・シャッター廻りの天井等、一部塗装し、修繕。



店主：櫻木 直樹さん

■実施前



既存シャッター／ショーウィンドウ



既存ショーウィンドウ

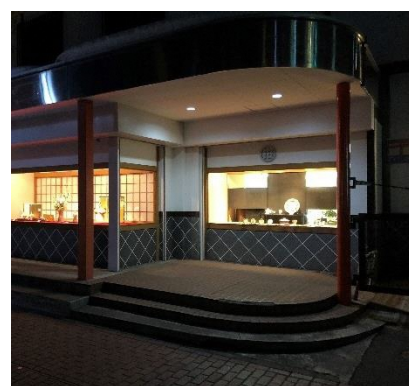
■実施後



新規シャッター／ショーウィンドウ



新規シャッター／ショーウィンドウ



新規ショーウィンドウ(夜間)

専門家からのコメント

シャッターを修繕することによって、特に夜間の通りからの印象が良くなった。今後は、建物の構造上、エントランスまでのアプローチをよりお客様が店内に入りやすくなるように刷新を行うと良い。

店舗の紹介



- 1) 所在地／電話番号
福島県会津若松市中町4-13／0242-28-1415
- 2) 創業年次
1838年(天保9年)。小売店舗の蔵は明治時代の建立。
裏の蔵は創業当時の天保年間の建立。
小売店舗の蔵は1985年(昭和60年)に全面改装。
- 3) 店舗の営業
会津産なめこ缶詰、山菜缶詰、干しぜんまい、地元菓子、酒類小売
- 4) 店舗の特色
地元会津の商品と共に大正時代、昭和初期の食品、菓子のポスター、額、箱などの展示
- 5) 営業時間／定休日
10:00～18:00／毎週日曜日
- 6) 商店街の中での特色
三代目新吉、四代目新蔵が製造を始めた、なめこ缶詰を中心に特徴ある地元の商品を品揃えしている。
- 7) 経営に対して心がけている点
食品菓子の流通を通じて会津の発展に寄与し、会津の食文化の創造に貢献できる企業を目指す。

専門家による調査結果の概要

内部に関しては、ペンダント照明、家具、什器、建具の統一感があるが、一方で天井から吊られている木枠が空間を狭く感じさせている。商品の陳列方法を改善し、室内空間を広く、動線を確保する必要がある。

専門家からの改善提案(リノベーションプランの内容)

既存の天井から吊られている木枠を撤去し、店内全体を趣のあるイサムノグチの和紙吊照明に統一化することで、室内空間を広く感じられようにする。

リノベーション後に対する期待

店内の照明改善で、販売者の意識も大きく変わると専門家からアドバイスを頂いた。照明の改善と共に、店内の商品配置、陳列法を見直すことで、お客様に楽しんでお買い物できる売場にしたい。店内に飾ってある昭和初期からの商品の箱、ポスター、骨董品の展示が照明の改善によってお客様に分かりやすくなった。

今後の展望

会津地場商品の品揃えを見直し、強化する。自社ホームページを改良改善して、ネット販売にも力を入れて行きたい。また、後方の蔵は、江戸時代・天保年間に建てられたもので、歴史的価値のあるこの蔵のリノベーションをして、時代にマッチした利活用を考えたい。

大町四ツ角中央商店街に関しては、歴史と伝統のある商店街として個性的で斬新なまちづくりを進めると共に、中心市街地活性化の先進モデルになれるようになればと考える。

リノベーションプランの実現内容

- ・既存の照明と重なり、空間を狭く感じさせていたので天井から吊るされている木枠を撤去。
- ・既存吊照明を撤去し、イサムノグチがデザインした和紙の吊照明を設置。



店主：五十嵐 新典さん

■実施前



既存木枠、吊照明／店内



既存木枠、吊照明／店内隅部



既存ディスプレイ／店内

■実施後



木枠撤去、新規吊照明／店内



木枠撤去、新規吊照明／店内隅部



新規ディスプレイ／店内

専門家からのコメント

既存吊木枠を撤去し、店内が広くなった。また、既存吊照明を撤去し、イサムノグチがデザインした和紙の吊照明を設置し、店内が明るくなった。

今後は、店内に簡単な飲食が出来るコーナーを設け、商品レイアウトを刷新していくと良い。

大町四ツ角中央商店街のリノベーション計画について



まちづくりプロデューサー
原田 鎮郎(はらだ しずお)

【プロフィール】

1968年 早稲田大学大学院修士修了 工学修士
1968年～75年 菊竹清訓建築設計事務所に勤務
上海同済大学客員教授 国際建築アカデミープロフェッサー
株式会社 環境システム研究所 代表取締役
愛知県立芸術大学客員教授、日本大学・昭和女子大学講師、
早稲田大学非常勤講師IAA(国際建築アカデミー)プロフェッサー
資格/一級建築士

平成29年度「光り輝く商店街発掘・創生事業」は、昨年度からの継続事業として、商店街振興組合と5店舗がリノベーションを実施した。その内容はそれぞれの店舗経営者の意向によるもので、外壁の補修、照明の刷新、外構の修繕など、それぞれの店舗が効果的にリノベーションを行えたといえる。昨年度事業が経験値となり、より効率的で内容のある打合せが実施され、店舗経営者にとって満足度の高い事例が実現できた。

昨年度も含めると商店街全体に対しては計9店舗のリノベーションが行われ、にわかにはあるが活性化の効果を感じ取れ、もとより商店街の方々の意識が変わったのであれば幸いである。リノベーションの行われた店舗がそれぞれの店舗で、さらにはそれぞれの個店を飛び出して周辺の商店街に対してどのような効果を生み出していくのかを注意深く見つめていきたいと思う。事業は今年度で終了となるが、継続的な取り組みがなされてこそその波及効果が生まれることにつながるので、是非各店舗が積極的に街に寄与する観点をもち、リノベーションを続けていって欲しい。

外部を主としたリノベーションではどれだけ誘客効果が増したのかを把握して、ひきつけられてきた客をどのように引きとめて内部に誘導するかについて次の戦略が必要になる。内部のリノベーションを行った店舗では、どのようにその内部空間を客に告知して誘導するかが課題となる。

何れにせよ、街を訪れる人にとっての体験としての満足度が重要になり、各店舗の内外部、そしてそれを含めた街全体の印象を向上させる取り組みが不可欠だ。

また空き店舗や空き地は活性化の拠点となる可能性を秘めている。この空間活用を若者に託し、有効活用しやすい仕組みづくりが重要となる。

若者を街づくりに参加させていくためには、若者の街中居住を推進したい。24時間若者がいることで様々な活気が発生する。その若者の中に会津大学などの外国人留学生を加えて、さらに海外からの教授陣にも街中居住を促進するインセンティブのある施策を考えていけば、街の国際化やインバウンドの増加も期待できよう。

今後も様々な取り組みを街として実施されていくと思うが、自分たちの街の強みを再認識し、各店舗が共通認識をもち、忍耐強く挑んでいくことが、賑わいを生み出して行く。商店街のさらなる発展を期待している。

専門家 平木 康仁(ひらき やすひと)



【プロフィール】

建築家、武蔵野大学工学部建築学科デザイン科 非常勤講師

1983年 広島県生まれ

2006年 早稲田大学理工学部建築学科 卒業

2007年 ドイツ バウハウス大学ワイマール校 留学

2009年 早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程 修了

2009年 株式会社小川晋一都市建築設計事務所 勤務

2010年 有限会社アシハラヒロコデザイン事務所 勤務

2015年 SURF Architects 主宰

【コメント】

賑わいを創出するには、やはり街に住む人が重要になる。今後は、特に若い人たちが街に入れる仕組みづくりが重要になると思われる。おそらく旧来の観光地化だけでは、長い将来を見たとき、地方都市において街のかたちを維持していくことは困難と考えられる。古い街並み、古い建物を若い人たちが楽しみながら住んでいる姿、それが街にとって財産になっていくという意識の浸透が今後は重要になる。